

科目ナンバリング		G-AAA02 82155 LB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ政治論 African Politics				担当者所属・ 職名・氏名		龍谷大学法学部 教授 落合 雄彦			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
<p>アフリカには現在、54の国家がある（西サハラを除く）。そうしたアフリカ諸国の政治をめぐる状況や制度は実に多様だが、その一方で共通性もかなりの程度みられる。本授業では、そうした多様ではあるが一定程度の共通性を備えたアフリカ諸国をひとつの圏域（スフィア）として捉え、その政治的動態を多面的に考察する。具体的には、アフリカ政治学のスタンダードな英文入門書である Thomson, Alex (2016) <i>An Introduction to African Politics</i> (forth edition, London and New: Routledge) をテキストとして用い、アフリカ政治を分析あるいは理解するために必要となる基本的な分析概念・枠組みを学んでいく。</p>											
【到達目標】											
アフリカ政治を分析するための基本的な分析概念・枠組みを理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>授業は学生による報告とその後のディスカッションを中心に進める。学生の報告については、受講者の人数などにもよるが、1回の授業で2名程度に報告してもらう予定である。 具体的な授業スケジュールとテーマは以下のとおり。</p> <p>01：オリエンテーション（自己紹介、発表順決めなど） 02：歴史 03：イデオロギー 04：エスニシティと宗教 05：社会階級 06：正統性 07：強制 08：主権I 09：主権II 10：権威 11：デモクラシー 12：安全保障 13：地域主義 14：域内国際政治 15：まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アフリカ政治論(2)へ続く -----											

## アフリカ政治論(2)

### [成績評価の方法・観点]

口頭発表ならびにディスカッションの内容を総合的に評価する。

### [教科書]

Thomson, Alex 『An Introduction to African Politics』 (Routledge) ISBN:978-1138782846 (原則、教員がこのテキスト(コピー)を配布する。)

原則、教員がテキストを配布する。

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

(関連URL)

<http://hare.law.ryukoku.ac.jp/~ochiai/>(落合雄彦研究室)

### [授業外学修(予習・復習)等]

事前に指示されたテキストを授業前に各自読んでくること。

### (その他(オフィスアワー等))

教員は非常勤講師であるため、木曜日午前しか京都大学キャンパスにはいない。授業に関する質問などがある場合には以下のアドレスにメールで問い合わせること。

[ochiai@law.ryukoku.ac.jp](mailto:ochiai@law.ryukoku.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52404 LJ31									
授業科目名 <英訳>		生態史論 Historical Ecology				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 安岡 宏和			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
人間と生態系との関係（史）について、中部アフリカ熱帯雨林における具体例をとりあげて講義したうえで、生物多様性保全や持続的な地域開発にかかわる諸問題において、人間と生態系との関係（史）に関する研究が、どのような観点から重要であるかについて議論する。											
【到達目標】											
以下の2点が到達目標である。 （1）在来の生態学的知識や文化的実践、また広域の政治・経済のしくみが、どのように人間と生態系の関係をかたちづけてきたか、ポジティブなもの、ネガティブなものをふくめて、人間活動が地域の生態系にどのような影響をおよぼしてきたかを理解する。 （2）人間と生態系の関係（史）という観点が、生物多様性保全や持続的な地域開発にかかわる諸問題にとりくむうえで、どのように有用であるかを理解する。											
【授業計画と内容】											
1. イントロダクション 2-14. 講義、文献講読、ディスカッション											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（100%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
（関連URL）											
<a href="https://sites.google.com/view/casinkyoto">https://sites.google.com/view/casinkyoto</a> (中部アフリカ研究 in Kyoto)											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業中に紹介した文献を読むこと											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52405 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域生態論 Ecology for Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 助教 佐藤 宏樹			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
地域とは地理的な条件や歴史的な経緯によって特徴づけられる空間である。生態学とは生物が環境や他の生物と関わりながら生きている実体を理解する学問であるが、対象となる空間の地理や歴史を考慮しながら生物やヒトの生き様を理解する地域生態学は地域研究に有効な学問となる。本科目では研究科が調査対象とする地域を例に挙げながら、その地域を生態学的に理解するためのアプローチについて解説していく。											
【到達目標】											
自身が調査地に赴いた際に、その地域の自然環境や生物資源、社会の特性を生態学的に理解するために必要な理論と方法を習得すること。											
【授業計画と内容】											
以下の項目について、解説していく。下記の授業の回数は目安であり、授業の進捗状況や理解度によって変更する場合がある。											
[第1-3回] 基礎生態学概論（生物学における生態学の基礎）											
[第4-6回] 生態学と地域研究（民族生物学、生態系サービス、持続的な開発目標への貢献など）											
[第7-10回] 動植物の野外調査法（種の同定、行動観察、密度推定、植生調査、フェノロジー調査、生物試料の取り扱い、許可証の取得など）											
[第11-13回] データ解析のための基礎統計学（量的・質的データの統計解析、図表の書き方）											
[第14-15回] 学術論文の書き方（論文の意義、精読、執筆、文献管理、投稿から公表までの手続き）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
講義への積極的な参加と応答、およびレポートに基づいて評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
統計解析では統計ソフトRを使用するため、事前に自身のPCにインストールする必要がある。インターネット上のデータベースを利用することがあるため、学内インターネット接続サービスに登録する必要がある。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52502 LJ31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ都市社会論 African Urban Society				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 平野(野元) 美佐			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>サハラ以南アフリカの諸都市は、外からのさまざまな影響を受けてきた。植民地時代に建設された都市はもちろん、古くから栄えてきた都市も、長距離交易、奴隷貿易、植民地化などの社会変動を受けつつ、その社会を形成、維持してきた。本講義では、ローカルとグローバルがせめぎ合うアフリカ都市社会の動態を、さまざまな文献を読み込むことで、多角的に理解することを目指す。</p>											
【到達目標】											
<p>アフリカのさまざまな都市の過去から現在への発展や、アフリカ都市居住者の社会や生活について学ぶことで、アフリカ社会のもつダイナミズムやグローバル性を理解し、自己の研究対象地域への理解も同時に深めることができる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>毎回、1人～2人の受講者に、文献の内容をレジュメにまとめて発表してもらい、全員で議論する形式で授業を進める。ただし、受講者の数やその関心によって、授業の進め方や内容を変更する可能性がある。</p> <p>第1回：ガイダンス（文献の紹介、授業の概要説明）  第2回～4回：アフリカ都市とは  第5回～7回：日本のアフリカ都市研究  第8回～9回：スワヒリ都市社会  第10回～11回：南部アフリカの都市社会  第12回～14回：西アフリカの都市社会  第15回：まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
発表内容、出席など総合的に評価する											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
受講生は、配布された文献等についてあらかじめ読んだり調べたりする必要がある。											
（その他（オフィスアワー等））											
メールで事前に連絡をください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52503 LB31									
授業科目名 <英訳>		相互行為論 Interaction Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 高田 明			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
Using multi-disciplinary research data I have collected, this course discusses the entwined relationships between human activities and the environment with special emphasis on the exchange of various natural and social resources among people in contemporary African societies. Each year, I will select a theme pertaining to this subject and develop empirical and theoretical arguments together with the course participants. In the 2020 course, we will reconsider hunter-gatherer childhood with setting "play" as the key concept, based on both the lecturer 's field research on several groups of San and the literature review of the relevant studies of the wider hunter-gatherer groups.											
<b>【到達目標】</b>											
In this course, we will develop the above areas of interest by analyzing selected domains of child play based on ethnographic materials.											
<b>【授業計画と内容】</b>											
This course deals with the following topics, each of which lasts one or two weeks. The topics may be modified according to the interests of the class. The lectures are given mostly in English, although I will use Japanese if all of the students are Japanese.											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Children in the Wild</li> <li>2. The Last Hunter-Gatherers of the Kalahari</li> <li>3 . Minding Hunter-Gatherer Childhood</li> <li>4. Children and Play</li> <li>5. Pleasure in nursing</li> <li>6. Playful Gymnastics</li> <li>7. The Joy of Early Vocal Communication</li> <li>8. Imitation in Playful Activities</li> <li>9. Socialization through Singing-and-Dancing Activities</li> <li>10. Play and Work</li> <li>11. Reconsidering Human Childhood</li> </ol>											
<b>【履修要件】</b>											
特になし											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
Grading is based primarily on reports and class discussions, with weight given to active engagement in class.											
----- 相互行為論(2)へ続く -----											

## 相互行為論(2)

### [教科書]

Handouts will be provided in class.

### [参考書等]

(参考書)

Reference articles and books will be assigned in class.

### [授業外学修(予習・復習)等]

Students will be required to submit two reports, one at the beginning and one during the middle of the course. Details about these reports will be provided in class.

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52504 LJ31									
授業科目名 <英訳>		生業とものづくり Livelihoods and Creativities in Africa				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 金子 守恵			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
現代のアフリカに暮らす人びとを理解するための中心的な対象のひとつは、彼ら・彼女たちが日々を生きていくための生業活動である。講義では、講師がこれまで調査研究をおこなってきたエチオピアでの生業活動（土器製作、農業、土産物製作）を対象に、フィールドワークという手法をもちい、ヒトと「もの」の関係に着目して彼らの生業活動にみいだされる特性を提示する。それをふまえたうえで、受講生とともに、アフリカに暮らす人びとが日々変化する諸環境への対応の仕方、ヒトと「もの」の関係に注目したフィールドワークの可能性、そして調査者が外部者としてフィールドに関わることの可能性について議論する。											
【到達目標】											
ヒトと「もの」の関係に注目して、現代アフリカに暮らす人びとによる生業活動へアプローチする手法を理解したうえで、日々変化する諸環境への彼ら・彼女たちの対応の仕方について受講生とともに議論、考察する力を身につけます。											
【授業計画と内容】											
第1回目（4/14）イントロダクション 第2回目（4/21）生業活動としてのものづくり1 つかう 第3回目（4/28）生業活動としてのものづくり2 つくる 第4回目（5/12）生業活動としてのものづくり3 まなぶ 第5回目（5/19）生業活動としてのものづくり4 売る 第6回目（5/26）ヒト-「もの」関係とフィールドワークの可能性1（時間、考古） 第7回目（6/2）農耕活動におけるヒト-「もの」関係1 第8回目（6/9）農耕活動におけるヒト-「もの」関係2 第9回目（6/16）農耕活動におけるヒト-「もの」関係3 第10回目（6/23）農耕活動におけるヒト-「もの」関係4 第11回目（6/30）ヒト-「もの」関係とフィールドワークの可能性2 第12回目（7/7）あらたな生業活動とヒト-「もの」関係1 第13回目（7/14）あらたな生業活動とヒト-「もの」関係2 第14回目（7/21）ヒト-「もの」関係とフィールドワークの可能性3 第15回目（7/28）フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートと授業への積極的な参加を評価します。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 生業とものづくり (2)へ続く -----											

生業とものつくり (2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業前後に予習と復習が必要であり、講義中に適宜指示します。

**(その他(オフィスアワー等))**

事前にメール等にて連絡してください。個別に対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52602 LB31									
授業科目名 <英訳>		在来知と内発的発展 Local Knowledge and Endogenous Development				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 重田 眞義			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期集中	曜時限	火 6	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>アフリカ農村の生業と生活における諸問題およびその歴史的過程を、ヒト - 植物関係論 [農業科学、人類学、生態学、栽培植物起源学、民族植物学 (エスノボタニー)、ドメスティケーション論など] の立場から考察します。講義では、アフリカの人々が培ってきた文化的資源としての在来知と、それを操る人びとの集まり (新たなコミュニティ) の分析を通じて地域社会における内発的発展の問題について考えます。農村、教育、博物館、生物多様性、ものづくり、定期市、睡眠文化などをキーワードにして上記の問題にアプローチします。</p>											
【到達目標】											
アフリカ地域研究の分野で、農村における生業と生活に関する研究の基本的な理解力をみにつける。											
【授業計画と内容】											
<p>以下の項目について講義をおこないます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. なぜアフリカと関わるのか；</li> <li>2. アフリカ在来知とポジティブな実践：研究と実践の架橋</li> <li>3. アフリカ農業と生態学的決定論：栽培植物の起源と利用</li> <li>4. ヒト - 植物関係論の実相：ドメスティケーションの過程をめぐって</li> <li>5. アフリカにおける社会的睡眠の文化論的考察</li> <li>6. 実践的地域研究と内発的発展</li> <li>7. 地域研究における生態・社会・文化の史的考察</li> </ol>											
【履修要件】											
特別な予備知識は必要ありません。知的好奇心を全開にして積極的に参加する諸君を歓迎します。											
【成績評価の方法・観点】											
レポートおよび出席状況によって評価します。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修 (予習・復習) 等】											
適宜配布する資料を精読して参加すること。											
(その他 (オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワーは特に定めませんが、e-mail: shigeta@jambo.africa.kyoto-u.ac.jp 宛に事前に希望時間を知らせてください。適宜対応します。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		G-AAA02 52603 LJ31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ開発論 Development in Africa				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 高橋 基樹			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>開発という言葉や状況は、アフリカの政府部門、援助機関、国際機関でしきりに観察されるだけでなく、今日のアフリカでは非常に一般的な目的となり、しばしばアフリカの人びとの日常生活に浸透している。現在、アフリカで開発に関連する状況が全く存在しない場所を見つけることは極めて難しい。この意味で、現代のアフリカ社会を学ぶためには、研究者はもはや開発を無視することはできない。他方で、開発状況は、その主体、人びとに対する含意、帰結において多様で複雑な諸側面を持つことが銘記されなければならない。この授業ではこの講義では、上記のような背景と意義を持つアフリカの開発の基礎知識を身につけることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代化の始まりから現代までの間に現れたさまざまな開発についての思想についての基本的理解を得る。</li> <li>2. アフリカにおける開発の担い手、利害関係主体、及びその相互関係について基本的な理解を得る。</li> <li>3. 国際開発援助とその歴史的変遷について基本的な理解を得る。</li> <li>4. 主要な開発指標とそれらをアフリカ諸国の社会経済的状況を分析するために用いる方法や考え方について理解する。</li> <li>5. 受講者それぞれの調査対象地における問題と開発状況との関係について明らかにするための基礎的な視座を築く。</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>授業の前半(第1回から第7回)では、担当教員が上記の5つの目的に対応した基礎的な知識について講義する。授業の後半(第7回から第15回)では受講者が、講義を念頭において、自身の研究テーマ、アフリカの研究対象地域、あるいは対象とする国と開発との関係について発表を行う。15回のうち1回、客員准教授(国際協力機構所属)による講義を行う。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>評価の50%は受講生の出席、議論への参加と貢献に基づく。          評価の50%は受講生の発表に基づく。</p>											
----- アフリカ開発論(2)へ続く -----											

## アフリカ開発論(2)

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

各受講者の発表に関わる参考文献については、担当教員に相談すること。

### [授業外学修(予習・復習)等]

受講生は、担当教員とよく相談の上、自らの発表について準備をすること。また毎回の授業にできる限り出席し、その内容について咀嚼し、自らの発表に反映させること。

### (その他(オフィスアワー等))

研究テーマに関する継続的で体系的な学習が研究能力を高めます。授業にはできる限り毎回出席するようにしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52604 LJ31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ環境学 Environmental Studies in Africa				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 大山 修一			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>近年、アフリカで調査をしていると、さまざまな変化に目を奪われることが多くなりました。物流や外資系企業の活動などの経済の動き、自然資源の利用や生態系への影響、選挙や法律の改変など、その変化は多岐にわたります。この授業では、アフリカの現代的な諸相を深く理解し、フィールドワークの素養を習得することができることをめざし、講義や実習、文献講読を通じて、アフリカの自然、生態、文化、生業に関するフィールドワークの実際とそのフロンティアをみなさんと考えていきます。</p>											
【到達目標】											
<p>サハラ以南アフリカにおける自然や社会、文化に関する理解をふかめるとともに、基礎的なフィールドワークの技法を身につけることを目標とします。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>講義は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに：授業の概要</li> <li>2. アフリカの自然 その1</li> <li>3. アフリカの自然 その2</li> <li>4. アフリカの急速な人口増加</li> <li>5. アフリカの土地制度</li> <li>6. アフリカのチーフと慣習地</li> <li>7. グローバリゼーションと貧困問題</li> <li>8. 自給農業は貧困なのか。</li> <li>9. 呪いはなぜ起きるのか。</li> <li>10. 気候変動と砂漠化</li> <li>11. 都市と農村の物質循環</li> <li>12. 農耕民と牧畜民の武力衝突</li> <li>13. テロはなぜ起きるのか。</li> <li>14. 地域研究と社会貢献</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>授業内容は、受講者の人数や興味によって変化することもあります。フィールドワークにおける基本的な技法（データの取得、まとめ方）について、実習を取り入れることも予定しています。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アフリカ環境学 (2)へ続く -----											

## アフリカ環境学 (2)

### [成績評価の方法・観点]

評価は、授業への理解（30%）と実習に対する期末レポート(70%)で評価します。

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

フィールドワークにおける基本技法（データの取得、および分析方法）を学ぶ実習も予定しています。この実習では、ノートパソコンを使い、マイクロソフトのエクセルとフリーのソフトウェアを使います。時間外に作業をしていただくこともあります。

### （その他（オフィスアワー等））

平日（月曜から金曜日）までの午後をオフィスアワーとしていますが、出張などもあるので、空振り避けるため、事前にメール連絡してください。

メールアドレスはoyama.shuichi.3r[[@](mailto:oyama.shuichi.3r@kyoto-u.ac.jp)]kyoto-u.ac.jp です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 62801 GB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士予備論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、フィールドワークの視点と方法を練り上げるための演習。											
【到達目標】											
博士予備論文に関する基本的事項を理解する。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士予備論文の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 72802 GB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、学際化と研究内容の深化を図るための演習。											
[到達目標]											
博士論文に関する基本的事項を理解する。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士論文準備の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査に合格した者。											
[成績評価の方法・観点]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 72803 GB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士論文の作成に向けて、そこで提起された個別課題に関する学生の研究内容について討議し、それをさらに総合化・深化させるための演習。											
【到達目標】											
博士論文に関する事項の理解を総合化・深化させる。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士論文作成の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52804 FJ31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
生態・社会・文化に根ざした地域の固有性を理解するとともに、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
<b>[到達目標]</b>											
フィールドワークに関する基本的事項を理解する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
<b>[履修要件]</b>											
1年次に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する											
<b>[参考書等]</b>											
（参考書） 授業中に紹介する											
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>											
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 62805 FB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	2-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう手法を習得する。											
<b>【到達目標】</b>											
フィールドワークに関する基本的事項についての理解を深める。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
<b>【履修要件】</b>											
2年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
<b>【成績評価の方法・観点】</b>											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
<b>【教科書】</b>											
授業中に指示する											
<b>【参考書等】</b>											
（参考書） 授業中に紹介する											
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>											
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 72806 FB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、国際機関やNGO、研究機関等において研究発表や討論をおこなうとともに、必要に応じて研究課題に即した実践活動をおこなう。											
【到達目標】											
フィールドワークに関する事項の理解を総合化・深化させる。											
【授業計画と内容】											
学生は教員とともに研究発表や実践活動の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地でそれを行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
【履修要件】											
博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）。ただし、博士予備論文提出後、その Semester 内に臨地教育を受けた者は臨地演習 の単位とする。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
【成績評価の方法・観点】											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析，応用が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52807 LJ31									
授業科目名 <英訳>		熱帯病学 Tropical Diseases				担当者所属・ 職名・氏名		関西医科大学 教授 西山 利正			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
アジア・アフリカ研究科ではアジア・アフリカ地域でのフィールドワークを行う研究者が多い、ところがこれらの地域は我が国に見られない種々の感染症を中心とした疾病が見られる。これらの疾病に対する知識を深め、健康に研究を遂行するための諸知識を習得する。											
【到達目標】											
学生の調査地における風土病に関する知識を身につけ、フィールド調査時における自己の健康管理ができ、熱帯地域における感染症の予防や罹患した時の治療の説明ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回：熱帯病学総論 第2回：カ媒介性疾患1（マラリア） 第3回：カ媒介性疾患2（デング熱、黄熱、チクングニア、西ナイル熱など） 第4回：カ媒介性疾患3（バンクロフト系状虫症、マレー系状虫症など） 第5回：ダニ媒介性疾患（恙虫病、紅斑熱、ダニ脳炎、クリミア・コンゴ熱、ライム病など） 第6回：ハエ媒介性疾患（リーシュマニア症、アフリカ睡眠病、回旋系状虫症、ロア系状虫症、人食いバエなど） 第7回：経皮感染症（住血吸虫症、鉤虫症、糞線虫症、レプトスピラ症など） 第8回：経口感染性ウイルス性疾患（A・E型肝炎、ノロ感染症、ロタ感染症、急性灰白髄炎など） 第9回：経口感染性細菌性疾患（病原性大腸菌群感染症、細菌性赤痢、腸チフス、サルモネラ食中毒、コレラ、カンピロバクタ感染症など） 第10回：経口感染性寄生虫疾患I（アメーバ赤痢感染症、トキソプラズマ症、ランブル鞭毛虫症、回虫症など） 第11回：経口感染性寄生虫疾患II（鉤虫症、鞭虫症、肝吸虫症、肥大吸虫症、肝蛭症、異形吸虫症、肺吸虫症） 第12回：ほ乳類咬傷による感染症・性感染症（狂犬病、破傷風、Bウイルス感染症、パスツレラ感染症、HIV感染症、梅毒、淋病、クラミジア感染症など） 第13回：マラリア・デング熱簡易診断キットの使い方（実習を含む） 第14回：航空機中で引き起こされやすい疾患と予防、旅行保険の上手な入り方 第15回：トラベルワクチンの選択と接種プログラムの作り方											
【履修要件】											
高等学校で生物を履修していることが望ましいが、必須ではない。											
【成績評価の方法・観点】											
レポートの提出により評価を行う。レポートのテーマはまず受講生の調査地を必ず記載し、その地域で流行している疾患を記載し、その予防対策、感染時の対応を記載する。											
----- 熱帯病学(2)へ続く -----											

## 熱帯病学(2)

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

<http://www.who.int/ith/en/>(WHO International Travel and Health)  
<http://wwwnc.cdc.gov/travel/>(CDC Travel Health)  
[http://www.forth.go.jp/tourist/useful/02\\_tokou\\_yobou.html](http://www.forth.go.jp/tourist/useful/02_tokou_yobou.html)(厚労省検疫所ホームページ)  
<http://www.anzen.mofa.go.jp/>(外務省海外安全情報ホームページ)  
<http://www.travelmed.gr.jp/>(日本渡航医学会トラベルクリニックリストホームページ)

### [授業外学修(予習・復習)等]

講義の後、関連項目をWHOのInternational Travel and Health や米国CDCのYellow Book等の該当部分をインターネットで検索し復習すること。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー 金曜日12時～13時

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52808 LJ31									
授業科目名 <英訳>		実践的開発協力論 Practical Development Cooperation				担当者所属・ 職名・氏名		アフリカ理解プロジェクト 白鳥 清志			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
アフリカの農業・農村開発分野における技術協力の事例から、開発援助事業が本来目指していることと現場で起こっている様々な事象を題材にした講義。開発援助の歴史と事業の概要を解説した後、開発とは何か、最終受益者・現地行政官・民間業者・開発ワーカーなど関係者それぞれのリアリティ、開発ワーカーの考え方、行動、役割、求められる能力などを議論する。											
【到達目標】											
開発と援助事業をクリティカルに考察できるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について次のテーマをカバーします。 1. 開発援助の歴史と仕組み 2. 開発の目的 3. 開発事業の事例(エチオピア、モザンビークなど) 4. 開発にかかわる組織と人 5. 開発への関わり方(開発の当事者、援助の当事者)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への出席と、議論への参加で判断します。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) Robert Chambers 『参加型開発と国際協力』(明石出版) ISBN:978-4750313078 (開発に関わる我々 が変ることを議論) Robert Chambers 『開発の思想と行動』(明石書店) ISBN:978-4-7503-2495-1 (「参加型開発と国際 協力」の続編で、開発の携わる者の責任と義務について議論) JIRCAS 『ファームング・システム研究:理論と実践』(JIRCAS) (日本におけるファームングシ ステムの詳細な解説と議論) 服部正也 『援助するものされるもの』(中央公論新社) ISBN:4120031047 (開発の携わる者の態度 と考え方) Paul Polack 『世界一大きな問題のシンプルな解き方 私が貧困解決の現場で学んだこと』(英治 出版) ISBN:978-4862761064 (開発をビジネスマインドで考える)											
----- 実践的開発協力論(2)へ続く -----											

## 実践的開発協力論(2)

大熊孝 『技術にも自治がある』 (農山漁村文化協会) ISBN:978-4540031076 (近代技術とコミュニティー)

佐藤寛 『参加型開発の再検討』 (Development Institute) ISBN:978-4258091997 (外部者が開発にどうかかわるかを議論 <http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Keikyo/199.html>)

Gonsalves, J. et al 『Participatory Research and Development for Sustainable Agriculture and Natural Resource Management』 (International Development Research Centre) ISBN:978-1844075638 (参加型開発に関する理論と実践のための豊富な事例集)

和田信明・中田豊一 『途上国の人々との話し方』 (みずのわ出版) ISBN:B00X3MR8AM (開発現場におけるコミュニケーションの方法)

佐藤仁 『野蛮から生存の開発論：越境する援助のデザイン』 (ミネルヴァ書房) ISBN:978-4623076772 (特に日本の開発と開発技術を歴史的見地から検討)

Alem, D. et.al. 『Farmer Research groups: Institutionalizing Participatory Agricultural Research in Ethiopia』 (Practical Action Publishing) ISBN:978-1853399008 (エチオピアでの参加型農業研究の経験のまとめ。技術協力の一例。)

関根久雄 (編著) 『実践と感情：開発人類学の新展開』 (春風社) ISBN:978-4861104695 (開発現場に関わる者たちの感情とその実践への影響などについて。)

### (関連URL)

[https://sites.google.com/site/ethiorice/\(Ethiopia Functional Enhancement of the National Rice Research and Training Center\)](https://sites.google.com/site/ethiorice/(Ethiopia Functional Enhancement of the National Rice Research and Training Center))

[http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/5065025E0/\(Ethiopia Farmer Research group Project II\)](http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/5065025E0/(Ethiopia Farmer Research group Project II))

[http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/\(Ethiopia Farmer Research group Project\)](http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/(Ethiopia Farmer Research group Project))

[http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/tech\\_ga/after/pdf/2004/hyouka\\_nougyo2\\_02.pdf\(Tanzania Kilimanjaro Agricultural Training Centre Project\)](http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/tech_ga/after/pdf/2004/hyouka_nougyo2_02.pdf(Tanzania Kilimanjaro Agricultural Training Centre Project))

[https://www.youtube.com/watch?v=f4L9X39fhFc\(FRG Approach - Together we can make it\)](https://www.youtube.com/watch?v=f4L9X39fhFc(FRG Approach - Together we can make it))

[https://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html\(モザンビークのプロサバナ事業\)](https://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html(モザンビークのプロサバナ事業))

### [授業外学修(予習・復習)等]

下記および他の開発援助事業資料を見て、質問等をリストアップしておく。

- エチオピア国立イネ研究研修センター強化プロジェクト

<https://sites.google.com/site/ethiorice/>

- エチオピア農民研究グループを通じた適正技術開発普及プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/>

- タンザニア農業技術者訓練センタープロジェクト

<http://goo.gl/kpqxcE>

・外務省プロサバナ

<http://www.jica.go.jp/project/mozambique/001/activities/>

・JVCプロサバナ事業に関する取組み

<http://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html>

### (その他(オフィスアワー等))

現場での研究調査などを通じたみなさんの開発や援助に対する知識や経験をもとに、積極的な議論への参加を期待します。

実践的開発協力論(3)へ続く

### 実践的開発協力論(3)

-----  
どんなことでも問い合わせてください。

kiyoshi.shiratori@africa-rikai.net

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 82809 LJ31									
授業科目名 <英訳>		牧畜文化論 Culture and Society of Nomadic Peoples				担当者所属・ 職名・氏名		徳島大学大学院社会産業理工学研究科 内藤 直樹 准教授			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
この授業では、講師が収集してきた学際的な研究資料を用いて、とくに現代のアフリカ牧畜社会における諸アクターの寄せ集まりに注目しながら、人間と非人間による場所の構成について議論する年度ごとにこの主題に関係するテーマを選び、授業の参加者と経験的・理論的な議論を行う。2020年度は、現代アフリカの牧畜民を対象にした講師のフィールド調査およびドメスティケーション、空間と場所、人新世についての関連文献に基づき、場所の生態学について考察する。											
【到達目標】											
この授業では、講師が選定した牧畜社会における場所や人間/非人間の寄せ集まりに関する複数の領域について、民族誌的な資料を分析することを通じて、上記の関心についての議論を深める。											
【授業計画と内容】											
この授業では、以下のようなトピックについて、1トピックあたり2～3回の授業を行う予定である。トピックについては、受講生の関心を考慮して適宜調整する。授業は主として英語で行う。ただし、受講生がすべて日本語話者である場合は日本語を用いる。											
1. 牧畜の起源と進化 2-3. ドメスティケーションについて 4. アフリカ牧畜社会の特徴 : 年齢体系と複婚制 5. アフリカ牧畜社会の特徴 : コミュニケーションとしてのねだり 6-7. 東アフリカ牧畜社会における開発と定住化 8-9. 東アフリカ牧畜社会における市場経済・国家・メディア 10-11. 東アフリカ牧畜社会における紛争・難民・平和 12-13. 場所と空間の人類学 14-15. アフリカ牧畜社会における人間 - 非人間の寄せ集まり : 場所の生態学にむけて											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価は、主としてレポートと授業中の議論に基づいて行う。議論への積極的な参加を重視する。											
【教科書】											
授業中にプリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) アナ・チン 『マツタケ：不確定な時代を生きる術』 (みすず書房) ISBN:978-4622088318 (Tsing, Anna. 2017. The Mushroom at the End of the World: On the Possibility of Life in Capitalist Ruins. Princeton: 牧畜文化論(2)へ続く											

## 牧畜文化論(2)

Princeton University Press.)

その他の参考文献は授業中に紹介する。

### [授業外学修（予習・復習）等]

受講者には2つのレポートの提出を求める（1つは初回の授業，もう1つは学期の途中で課題を提示する）。レポートの詳細については授業中に解説する。

### （その他（オフィスアワー等））

質問はnaito.naokiアットマークtokushima-u.ac.jpまでお送りください。随時受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52851 SB31										
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習 I Research Seminar on African Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				アフリカ地域研究専攻全教員
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語	
[授業の概要・目的]												
アフリカ地域研究にかかわる基礎的な問題とそれに対するアプローチの方法についての演習をおこなう。												
[到達目標]												
アフリカ地域研究の特質を理解し、みずからの研究課題を設定する能力を身につける。												
[授業計画と内容]												
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。												
[履修要件]												
博士予備論文審査にまだ合格していない者。												
[成績評価の方法・観点]												
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。												
[教科書]												
使用しない												
[参考書等]												
(参考書) 授業中に紹介する												
[授業外学修(予習・復習)等]												
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。												
(その他(オフィスアワー等))												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング		G-AAA02 52852 SB31											
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習ⅠⅡ Research Seminar on African Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				アフリカ地域研究専攻全教員	
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】													
アフリカ地域研究にかかわる具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。また、博士予備論文のための研究に関する広い立場からの評価や指導をおこなう。													
【到達目標】													
アフリカ地域研究の特質を理解し、みずからの研究課題を設定する能力を身につける。													
【授業計画と内容】													
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。													
【履修要件】													
博士予備論文審査にまだ合格していない者。													
【成績評価の方法・観点】													
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。													
【教科書】													
使用しない													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		G-AAA02 72853 SB31										
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習ⅠⅠⅠ Research Seminar on African Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				アフリカ地域研究専攻全教員
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語	
<b>[授業の概要・目的]</b>												
アフリカ地域研究にかかわる総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。												
<b>[到達目標]</b>												
アフリカ地域研究における研究課題を設定し、その成果を統合的に整理して提示することができる。												
<b>[授業計画と内容]</b>												
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。												
<b>[履修要件]</b>												
博士予備論文の審査に合格した者。												
<b>[成績評価の方法・観点]</b>												
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。												
<b>[教科書]</b>												
使用しない												
<b>[参考書等]</b>												
(参考書) 授業中に紹介する												
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>												
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。												
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング		G-AAA02 72854 SB31											
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習IV Research Seminar on African Area Studies IV				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				アフリカ地域研究専攻全教員	
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】													
アフリカ地域研究に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。													
【到達目標】													
アフリカ地域研究における研究課題を設定し、その成果を統合的に整理して提示することができる。													
【授業計画と内容】													
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。													
【履修要件】													
博士予備論文の審査に合格した者。													
【成績評価の方法・観点】													
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。													
【教科書】													
使用しない													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													